

令和7年度 地域でつながる家庭教育応援事業
第2回地域家庭教育推進県北ブロック会議

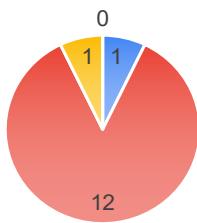
日 時：令和8年1月15日（木） 14:00～16:00
場 所：中町ビル
参加者：委員12名 事務局等10名



<令和7年度の取組についての説明と委員による評価>

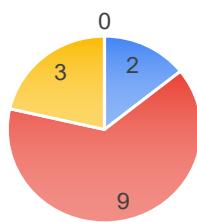
地域家庭教育推進県北ブロック会議

- 会議前に、市町村の家庭教育の担当者で情報交換の時間を設けた。各市町村の家庭教育の現状や課題を共有する貴重な時間となった。
- 協議では、様々な立場のブロック委員からご意見をいただき、今年度の家庭教育の方向性を明らかにした。



家庭教育支援者地区別研修会

- 支援者が学ぶ場としてはもちろん、それぞれが自分の立場でできることを考え、職場や地域に学んだことを伝える、広げていく、という意識をもってもらえるような研修会にしていきたい。
- 支援チームはもちろん、家庭教育の支援者や支援チームと保護者がつながる場として、今後も支援者に限らず多くの方に参加してもらえる研修会にしていきたい。



「親の学び」の場が、単なる知識習得だけでなく、同じ悩みをもつ保護者とのネットワーク作りの場となるよう、研修会等の参加のハードルを下げたり、周知の工夫を行ったりするなど来年度にいかしていきたい。

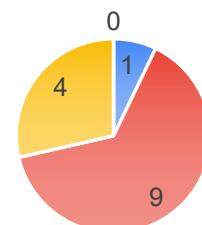
親子の学び応援講座

- 福島第一中学校、川俣町PTA連絡協議会、川俣小学校の3か所で実施した。講師や内容もそれぞれ違ったが、どの親子の学び応援講座でも親子で学ぶことのよさが感じられた一方、保護者の参加が少ないことが今後の課題である。



家庭教育応援企業推進活動

- 応援企業の取り組みはもちろん、県北ブロック会議で決まったことなど、県北の取組を紹介したり、地区別研修会等のお知らせ、支援チームの紹介等、家庭教育に関する情報を提供したりすることで、できるだけ企業のメリットになるように努めてきた。



詳しくは県北教育事務所HP「家庭教育の充実に向けて」をご覧ください。



- 十分満足できる
- 満足できる
- おむね満足できるが一部に課題がある
- 内容に検討が必要

＜令和8年度の方向性について＞

- ・令和6年度から「子どもの成長に寄り添い、支える、親のかかわり」をテーマに家庭教育の推進が行われており、保護者への支援情報が届いていないことが課題として指摘されている。
- ・文部科学省の調査によると、家庭教育支援チームの活動に関する課題として「認知度の低さ」が最も多く挙げられている。

保護者を支える場があることを伝えるには、どのような方法があるか

子育て世代に寄り添い 周知していく

- ・保護者のニーズを把握する。
- ・親の教育の場を設ける。
(プレパパ、プレママのうちから)
- ・アクセスしやすい環境づくりをする。
(気軽に話せる場、困りごとが言いやすい環境)



関係機関、特に学校との連携を強化する

- ・入学式等保護者が集まる場で動画等を用いて周知する。
- ・学校の授業(子ども)、PTA集会等(保護者)で周知する。
- ・学校がしっかり保護者を受け止め、支援チームにつなげることができるように連携していく。

支援チームについて周知するだけでは「困ってはいるが支援を拒否する(または自覚がない)保護者」へのアプローチは難しいですが、まずはすべての保護者に情報が届くよう委員のみなさんからいただいたご意見を基に、来年度に向けて検討していきたいと思います。

**困っている保護者が「いつでも安心して相談できる環境」をつくり、
社会全体で子育てを支えていきましょう！**

日常で使っているツールを 効果的に活用する

- ・LINE、SNS、YouTubeや、学校のメールを活用する。
- ・ホームページや広報誌を活用し、興味を引く内容を提供する。



支援チームの認知度が 向上するように取り組む

- ・支援チームの周知を紙媒体で行う。
(幼稚園、保育所、小・中学校、特別支援学校、公共施設等)
- ・相談しやすいよう、実際の相談事例や体験談を掲載する。
- ・支援チームにいろいろな場(検診、読み聞かせ等)に出向いてもらい、つながり作りを支援する。